

いちばん身近な文芸誌

編集・発行 **日本民主主義文学会**

TEL 03-5940-6335 FAX 03-5940-6339
メール info@minsyubungaku.org
〒170-0005 東京都豊島区南大塚2-29-9 -202

民主文学 4 月号から新連載スタート

峠を越えて



最上裕さん 赤旗 「**広き流れに**」に続く渾身の連載!

この機会に、『民主文学』をぜひご購読ください。



最上裕（もがみ・ゆう）
一九五四年生まれ。香川県出身。
一九七五年、電機大企業に入社。入社早々思想干渉に遭遇。
装置検査から品質管理に異動させられるが、システム開発を
独学し、社内システムの開発、保守等の業務に従事。
一九九七年、「記念樹に向かいて」で支部誌・同人誌推薦作品
優秀作
二〇二三年、しんぶん赤旗に「広き流れに」を連載
日本民主主義文学会会員、電機・情報ユニオン賛助組合員
著書…『陸橋の向こう』『さくらの雲』『真夜中のコール』

筆者の言葉

日本を激しく揺さぶった学生運動が
終息して、後を受けた世代は馬車馬の
ように社会を引っ張る団塊の世代に背
を向け、何事にも傍観者のようにふる
まって、「しらけ世代」と呼ばれた。
ただ、多感な若者の心には焦燥感が
残っていた。

その世代の吉竹修治は、内向的な性
格を変えようと学生自治会活動に参加
して、社会に目を向けるようになり民
青同盟に加盟した。瀬戸大橋建設に
よって被害を受ける漁師家族を描いた
演劇を学生祭で発表した。祭りが終わ
ると仲間たちは就職というステージに
向かい散っていった。修治も大企業で
の思想差別の報道に転籍を躊躇する
が、民青地区委員長の励ましに背中を
押され大企業の塀の中に飛び込む。

しかし、初めて知る世間の水の苦さ
に右往左往して、仲間からもはぐれ
て、道に迷う日々を送る。田舎で昔な
がらの生活を続ける父親と東京で自分
の居場所をさがす息子の葛藤、逆行
を続ける時代の歯車と格闘した尊敬す
る職場の仲間たちを描きました。お読
みいただき、ご批評をいただければ幸
いです。

★下の用紙を切り取って、FAXあるいは郵送でお申込ください。雑誌は直接ご自宅にお送りします。

購読申込書

申し込み

民主文学購読費 月額988円(送料込み)

月 日

FAX番号 03(5940)6339

いずれかに○印をつけてください。

- () 4月号より定期購読する。
- () 「峠を越えて」連載中期間のみ定期購読する。

お名前

ご住所 〒

電話番号